

2023年6月17日(土)

老球の細道736号

### 全会津中体連雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

出る杭は打たれる。出過ぎた杭は打ちようがない。引っ込んだ杭は腐ってしまう。それゆえ悔い(杭)が残る。中学校時代のバスケットボール活動は消極的だったために最後まで悔いが残って終わってしまった。

若松二中だった私は、3年時、全会津優勝して県大会への出場を夢見ていた。しかし、若松市中体連では優勝したが、全会津大会では2回戦で強豪坂下一中に完敗してしまった。その坂下一中が前年の優勝(県大会3位)に引き続き2年連続優勝だろうと思っていたらアップセットが起きた。若松市の中体連で私たちに決勝で負けたザベリオ中が優勝したのである。坂下一中は準決勝で本郷一中に負け、その本郷一中はザベリオ中に負けた。爺様になると昔のことがやたら思い出される。童話も「昔々」はお爺ちゃん、お婆ちゃんが主人公。

先日全会津中体連が開催された。男子の部で坂下中が56年ぶり(前身の坂下一中)に優勝した。今年の会津地区中学3年生男子は黄金世代で、ミニバス時に塩川が県大会優勝、松山が3位、坂下がベスト8(地区大会では塩川に1点差負けの準優勝)である。そして、この3チーム以外のチームにも逸材がゴロゴロしていた。

その黄金世代の子ども達が中学校へ進んでどのように成長しているか楽しみに観戦しに出かけた。特に坂下中に関しては坂下ミニバス時代の二瓶誠二氏、鈴木新氏などの熱心な指導を彼らの小学校2年生時から見て来たので、ミニバス時代は優勝できなかったけれども、中学校で花開いたのは幸いであった。

坂下中の選手達はミニ時代身体が小さかったが、多くは身長が伸び、がっちりした体つきになり、プレイもさらにパワーアップした。小学校2年生時に坂下町出身の東京五輪(1964年)代表選手の江川嘉孝氏の指導を受け、「この中から将来日本を代表する選手が必ず育つよ」と将来性を高く評価されていたので今後さらにレベルアップするだろう。

全体的に試合内容を観察すると、個人技に優れている選手はどこにもいるが、チームプレイの中で個人技を駆使するチームは少なかったような気がした。チームプレイの中に攻防共に明確なチームルール、コンセプトが見えなかったのは残念である。オフェンスチームプレイの基本3原則は非常にシンプルであるが不徹底である。①スペーシング(空間)②タイミング(時間)③コミュニケーション(仲間)。キーワードは「あかしや三間」。蛇足になるが、女子のワンハンドシュートはあいかわらず少ない。そのためペイント内のディフェンスとの競り合いにおけるシュートはほとんどはずす。なんとかならないのだろうか。

最後に、中学校教員の長時間労働解消として部活動が無くなり、地域やクラブチームに移行されるようである。県内では会津若松市が段階的移行として土、日曜日の部活動を外部指導者に依頼して行っているという。ミニで頑張ってきた子供たちが中学校でさらにバスケットが好きになり、技術向上と人間性向上の両輪が期待できる活動になることを切に願う。